
Paganism.Heretic.

FORNEUS

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

Paganism・Heretic.

【Nコード】

N1950Z

【作者名】

FORNEUS

【あらすじ】

俺は誰の指図も受けない。俺のやりたいようにやる。それが、破壊に向かっても・・・。
つてなわけで原作の平行世界スタート！
一誠の性格改変、原作ブレイクものです。あと、R-18スレスレです

Life・1

Side一誠

俺の名は兵藤一誠。周囲の輩にはイツセーだのなんだの言われている。

他校の生徒すら俺の事を知っている。

例えば、今とか……………

「お前、イツセーだろ？ココらは俺様のテリトリーなんだよ。調子くれてんじゃねえぞ？やっちなまえ！」

他校の生徒に囲まれたりしてな？

「適当に遊んでやるよ……………。モブキャラ供が」

「舐めてんじやねえ！」

どうやら、最初の犠牲者はコイツらしい。

前から突っ走ってくる他校生の顔面に右ストレートをお見舞いする。

「ぐあめ……………」

呻き声をあげる他校生の腹に脚を乗せて踏みにじる。グチャグチャと内臓の潰れる音がする。

……なんか、愉しくなってきたぜ！

「ヒイツ……！？」

「無理だ！？………こんなの敵うわけがねえ！」

「逃げるぞ………！？」

オイオイ………逃がすわけねえだろうが？

「さあ、死な無い程度に砕け散れ」

「 次のニュースです。昨夜未明、 高校の二年生4人が路地裏で発見されました。4人の内の1人は内臓破裂残り3人は全身複雑骨折で病院に搬送されました」

全く、物騒な世の中になったもんだなあ？

「おっと、もう8:30か。そろそろ学校に行かねえと」

つー訳で学校に着いた。え？速い？知るか、んなこと
ああ、早速眠い…………… z z z

「あ、あのお……………」

うーん……………。

誰だ、俺の眠りを妨げる奴は？朝から自殺志願者か？
命は大切にしろよなあ……………

「あのお……………」

目をこすって声のする方を向くと

黒髪が艶々でスレンダーな女子が俺の席の前にいた。

「やあ、おはよう。何かようかな？」

え？変わり身が速い？そりゃ、美少女と話をするんだから、ちゃんとした姿勢で臨まないとな。

「わ、私と付き合って下さい！」

顔を赤らめながら彼女はそう言った。

「なんでこんな美少女がイツセーの彼女なんかにいいいい！」

「世の中のシステムが反転したとしか思えない……。イツセー、まさか何かの弱味でも握られているのか？」

なんて声が外野から聴こえる。

ああ、ウゼエ……………

まあ、負け犬の遠吠えってやつだな。ザマア

そんなこんなで浮かれたまんま授業が終わった。

え？デートの約束？……………したに決まっておるうが！

日曜日〜日曜日〜

「ケタケタケタケタケタケタ……………」

「あ？」

変な声が聴こえると思って後ろを振り向くと、明らかに、気違いな声をあげる上半身が裸の女、下半身が巨大な獣という出で立ちの人外の化物としか思えない異形がいた。

……………俺の気分を害した罪は重いぞ？

「『迷宮絲』！」

地表から絲が這え出て人外を拘束する。

「さあ、哭き叫べ」

グチャツッ！！

俺の放った右手は奴の肋骨を難なくへし折る。

「ギア…アア……………」

「オイオイ、まだこんなの序の序の序の口だぞ？」

更に右、左、右、左……………と拳を打ち込み人外の身体を变形させていく。

「コ、コロ…………セ」

「馬鹿いうな。まだまだ死なせてやんねえよ」

俺は心臓や脳を避けながら骨を砕いていく。手に血がこびり付く。

……………人外でも赤い血の奴がいるんだなあ？鉄の匂いもする。

殴り過ぎて内臓が飛び散ってるなあ……………

ズブツッ！

「じゃあお前、コレを握り潰せよ」

俺は人外の腹からドクドクと鼓動する心臓を傷付けないように抉り出す。

自分の手で終わらせてあげようというんだ。俺、優しいだろう？

「ホラホラ、さっさと潰せよ。嫌なら俺が潰させてやるよ」

「！？」

人外の腕を引き抜く。辺りに血が飛び散るが気にしない。ソレを手で持って

グチャッ！

そのまま握り潰す。

………脳が生きてるかも知れないから潰すかな？

右手に力を込めて頭蓋骨を砕く。

液体がスゲエなあ？脳漿か？

取り敢えず砕けた頭蓋骨を真っ二つに開いて脳を引っ張り出し脳を壁に投げつける。

暫くすると、人外の身体は霧のようになり消え去った。
跡に残るのは、充滿した血の匂いと飛び散った血の痕だけだった。

ふう、遊びすぎたかなあ？血の匂いが染み付いてるなあ……
さっさと帰って風呂入って寝よ。

S i d e O u t

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1950z/>

Paganism.Heretic.

2011年12月7日02時00分発行